

令和6年度

優れた教育活動表彰

1 学校（11校）

| 学 校 名 | 学校長氏名 | 表 彰 の 理 由 |
|-----------|---------|--|
| 出雲市立四絡幼稚園 | 黒 目 教 子 | <p>令和5年度「島根県教育委員会人権教育実践モデル園」の指定を受けた。実践テーマを「自ら心と体を動かし、たくましく生活する幼児の育成 ～「思いの伝え合い」を支える教師の援助のあり方を探る～」と設定し、これまでの教育活動の取組を人権教育の視点で見つめ直すとともに、幼児が、興味や関心をもった「ひと・もの・こと」に関わる中で自分の思いや考えを表したり、諦めずにやりとげようとしたりし、遊びや生活に意欲的に取り組む姿を大切にしている実践を行った。</p> <p>幼児が意欲的に遊びや生活に取り組むには、自ら心と体を動かし、主体的に環境に関わり、思いを伝え合うことが大切であると考え、「思いの伝え合い」に視点をあて、幼児一人ひとりの思いや育ちを捉えた教師のあり方を探ることに重点を置いた。</p> <p>研究実践として、教師間で、遊びの一場面を捉えた写真を用いて話し合うことで、共通理解のもとで子どもに寄り添った支援につなげたり、子どもたちの年齢に応じて「ぐっどタイム」や「いいねタイム」などのネーミングで遊びの後の話し合いを行ったりして、一人ひとりの「見て聞いて」の思いを教師が丁寧に受け止めることを積み重ねた。</p> <p>その結果、子どもたちが友達の思いに興味を持つようになり、自分の思いが大切にされているという実感から、自分の思いを安心して周囲に伝えられる姿へと発展した。</p> |

| 学 校 名 | 学校長氏名 | 表 彰 の 理 由 |
|-----------|---------|---|
| 安来市立安田小学校 | 伊 藤 英 俊 | <p>令和5年度第55回中国地方放送教育研究大会(島根大会)・第37回島根県メディア教育研究大会(安来大会)に向け、研究主題「教科のねらいに迫るICTの特性を生かした授業づくり「もっと知りたい、伝えたい」～主体性を高める学習過程の工夫～」を掲げて、熱心に研究を進め、広く島根県の教育の充実に寄与した。</p> <p>児童が高い意欲をもって、膨大な情報からなにが重要かを主体的に判断し、自ら問いを立てて解決を目指し、他者と協働しながら新たな価値を生み出していく資質・能力を、ICTの活用によって育成するため、ICTを効果的に活用する方策を探究した。また、早い時期からの積み上げの必要性から、低学年からでもICTを活用できるような授業づくりを行った。そのほかにも、日本放送協会が学校向けに提供しているサービス「NHK for School」を活用する利点を整理し、児童の主体性を高める使い方につなげ、今後の指針となった。</p> <p>令和6年度は、これらの研究成果を踏まえ、「つながり合って学びを深める子どもの育成」を目指し、研究を続けている。</p> |
| 安来市立母里小学校 | 大 森 俊 一 | <p>令和5年度第55回中国地方放送教育研究大会(島根大会)・第37回島根県メディア教育研究大会(安来大会)に向け、研究主題「これからの時代を生きる力を育むICT活用教育～進んで自分の思いを伝え合い高め合う子どもの育成～」を掲げて、熱心に研究を進め、広く島根県の教育の充実に寄与した。</p> <p>ICTを効果的に活用するための環境整備とスキル指導を基盤に、学校をあげてICTが自然に教育活動に生かされる状況にまで高めたうえで、授業づくりに邁進した。令和5年度は、日本放送協会が学校向けに提供しているサービス「NHK for School」の利点を生かすことができる場面や、ICTがより効果的に活用できる場面を追究し、主体的・対話的で深い学びの視点から改善を図った。研究大会をゴールとせず、日常的に学び合う教職員集団を形成したことで、力量が向上した。</p> <p>令和6年度も、研究成果を土台に、進んで自分の考えや思いを伝え合い、高め合う子どもの育成を目指し、授業づくり、集団づくりの研究を進めている。</p> |

| 学 校 名 | 学校長氏名 | 表 彰 の 理 由 |
|-----------|---------|---|
| 安来市立井尻小学校 | 門 脇 岳 彦 | <p>令和5年度第55回中国地方放送教育研究大会(島根大会)・第37回島根県メディア教育研究大会(安来大会)に向け、研究主題「課題意識をもち、自分の考えや思いを伝え合い高め合う子どもの育成～ICTの活用で子どもの対話を生み、一人一人の学びを深める授業づくり～」を掲げて、熱心に研究を進め、広く島根県の教育の充実に寄与した。</p> <p>学びがどうあるべきかを教職員が常に意識し、子どもたちの学びを広げ、深めるための道具として、ICTをどのように効果的に活用するかを探究した。「伝え合う力」を育成する取組として、ICTの有効性を取り入れて授業改善を図り、対話によって学びを深めていく授業づくりを目指した。また、国語科の学びとICTの利点を生かして実施した、近隣の同規模校とのリモート交流会は、学びのつながりを日常的に大切にした取組の一つである。</p> <p>令和6年度も、引き続きICTの効果的な活用で主体的・対話的に学び合う姿を目指して研究を進めている。</p> |
| 安来市立赤屋小学校 | 越 野 浩 一 | <p>令和5年度第55回中国地方放送教育研究大会(島根大会)・第37回島根県メディア教育研究大会(安来大会)に向け、研究主題「自ら学びを広め、深め、進んで表現する子どもの育成～ICTの活用と自己決定のある授業づくりを通して～」を掲げて、熱心に研究を進め、広く島根県の教育の充実に寄与した。</p> <p>ICTを用いた家庭学習を積極的に取り入れ、学校と家庭の学習を結びつけることで学習効果を高めた。</p> <p>また、ICTを活用した視覚支援や互いの考えの共有など、「自己決定」につながる効果的な事例を模索し、積極的に授業実践を行った。その結果、個人思考と協働的な学びを生み出すとともに、児童の活動に効果的な支援を行う教師の力量向上にもつながった。</p> <p>令和6年度も、これらの研究成果をもとに、「自己決定」をキーワードに研鑽を重ねている。</p> |

| 学 校 名 | 学校長氏名 | 表 彰 の 理 由 |
|-----------|---------|--|
| 出雲市立大津小学校 | 塚 田 英 樹 | <p>島根県教育委員会教育指導課事業である「授業の質の向上プロジェクト事業」（平成28～30年度）、「『主体的・対話的で深い学び』を実現するための授業改善プロジェクト事業」（平成31～令和3年度）、「しまねの学力育成プロジェクト事業」（令和4～6年度）の研究指定校として、長期にわたり研究・実践を重ねた。</p> <p>全国学力調査の結果における課題を受けた「授業の質の向上プロジェクト事業」では、算数科を中心に教員の授業力向上と児童の学力育成を目的とした研究を進めた。</p> <p>令和2年に全面実施となった学習指導要領を受け、子どもたちに求められる資質・能力を育むために必要な学びのあり方を考え、授業に工夫・改善を重ね、それを確かなものにしていくことを目的に、研究指定校としていち早く算数科を中心に研究に取り組み、実践した。</p> <p>令和4年度からは「しまねの学力育成プロジェクト事業」研究指定校として、引き続き算数科における授業改善を目的に、県外先進校の視察や研究実践等を行っている。</p> <p>長期にわたり実践を積み重ね、その成果を県内に広めることで、島根県における授業力向上、学力育成の実践に貢献している。</p> |

| 学 校 名 | 学校長氏名 | 表 彰 の 理 由 |
|-----------|---------|--|
| 安来市立伯太中学校 | 實 重 詔 子 | <p>令和5年度第55回中国地方放送教育研究大会（島根大会） ・第37回島根県メディア教育研究大会（安来大会）に向け、研究主題「協働的に学び、課題を解決しようとする生徒の育成～ICTの効果的な活用を通して～（令和4年度）」「自ら学ぶ生徒の育成～『自律』を促すしかけづくりを通して（令和5年度）」を掲げて、熱心に研究を進め、広く島根県の教育の充実に寄与した。</p> <p>小学校でのICT活用を受け継ぎ、自然な形でアプリケーションを用い、多様なICT機器を組み合わせた学びを実現し、生徒の学びを深める実践を重ねた。また、映像資料の使用による理解の促進やICTによる意見の表出、リアルタイムでの思いの共有など、自律性と協働性を高めるための効果的なICTの活用を追究した。そのほか、ICTの活用により、自己表現や自己決定ができる環境を生み出し、教科指導と生徒指導が一体化した授業を実現できるよう取り組んだ。</p> <p>令和6年度も、これらの研究成果を土台に、全教科における「自律を促すしかけづくり」を通して、自ら学ぶ生徒の育成を目指して研究を進めている。</p> |
| 雲南市立加茂中学校 | 目 次 達 郎 | <p>令和4年度「文部科学省人権教育研究指定校」、令和4・5年度「島根県教育委員会人権教育研究指定校」の指定を受けた。研究主題を「『つながりあい、ともに成長しようとする生徒の育成』～人間関係づくり、集団づくりをとおして～」と設定し、これまでの教育活動の取組を人権教育の視点で見つめ直すとともに、子どもたちが人との望ましい関わり合いを通して自分を素直に表現し、ともに困難に立ち向かう力を育むための研究実践に取り組んだ。</p> <p>励ましと認め合う場面を取り入れた授業づくりや、学級活動での集団づくりのほか、行事での他学年との人間関係づくりなどの特別活動の充実、地域の教育力を生かした地域住民とのふれあいや地域貢献活動の実施などに重点をおいて取り組んだ。</p> <p>こうした取組は、今後の人権教育を推進する実践事例として、他校の参考になるものである。</p> |

| 学 校 名 | 学校長氏名 | 表 彰 の 理 由 |
|---------------------|---------|---|
| 島根県立三刀屋高等学校 掛合分校 | 本 間 達 也 | <p>創立以来、地域に根差し、「地域とともにある学校」を標榜しながら教育活動を行ってきた。そしてこれまで、地域の大人たちとの関わりを深めながら、地域を知り、地域の課題解決のための具体的な提案を行う「地域をフィールドとした探究学習（PBL）」の実践を進めてきた。</p> <p>令和4年度に2年生が取り組んだ「掛合分校がうんなんのお米を応援するプロジェクト」においては、地域の営農組合やアドバイザー等の協力を得て地域協働体制を構築することで、専門家からプロの視点で継続的な指導を受けることが可能となり、探究学習の持続可能性が高まると同時に、地域の関係諸機関にとっても価値のある取組となった。また、生徒を対象としたアンケートでは、主体性や地域貢献意識が高まったと回答する割合が大きく上昇しており、プロジェクトを通して生徒の主体性や地域貢献意識が育まれていることが分かった。</p> <p>こうした取組は、本県の教育の充実・発展に資するものである。</p> |
| 島根県立隠岐養護学校 | 木 村 芳 宣 | <p>高等部生徒の提案により、令和3年度以降、毎年度2学期に、隠岐の島町の西町商店街と協働して、商店街のにぎわいづくりの取組として「隠岐養護マルシェ」を開催している。</p> <p>令和5年度は10月28日に開催され、ハロウィンイベントなどが行われ、小さな子どもがいる家族連れといった、普段あまり商店街に来店しない客層も多く訪れてにぎわい、商店街や地域の方からの評価も高いイベントとなった。</p> <p>開催までの準備や当日の接客等で、生徒の社会性の育成やコミュニケーション力の向上、特別支援教育への理解啓発につながった。また、地域にとってもにぎわいの創出につながり、学校と地域の双方にとって有益な取組となっており、特別支援学校での地域協働活動の実践として他の参考となるものである。</p> |

| 学 校 名 | 学校長氏名 | 表 彰 の 理 由 |
|--------------|---------|---|
| 島根県立松江清心養護学校 | 妹 尾 貴 巳 | <p>40年以上にわたり、小学部が地域の小学校と学校間交流を積み重ね、障がいに関する理解啓発に取り組んできた。近年では、松江工業高等専門学校との交流にも取り組んでいる。また、公民館と連携し、地域住民参加イベントに児童が参加するなど、さまざまな世代の地域の方に、特別支援学校および肢体不自由という障がいへの理解を促す取組を継続している。</p> <p>また、校内の学校運営協議会委員が中心となって令和4年12月に「生馬地域ボッチャ体験・交流会」を実施したのを皮切りに、令和5年度にも第2回を実施し、年齢、性別、障がいの有無を問わないというボッチャの特性のもと、小中学校、高等専門学校、大学、公民館、医療機関、福祉施設、行政機関等、さまざまな立場の方が参加したことで、障がい理解やボッチャ振興に寄与する結果となった。さらには、島根県ボッチャ協会と連携、協力し、令和4年の県内特別支援学校のボッチャ大会発足にも尽力した。これらの取組は、障がいのある児童生徒がさまざまな人とともにスポーツをすることに喜びを感じ、社会参加への意欲を高めることにつながり、また、特別支援学校を拠点とした障がい者スポーツ普及の範ともなるものである。</p> |

(注) 上記の掲載順は、原則、幼稚園・小学校・中学校・高校・特別支援学校、かつ建制順による。

2 個人（5名）

| 氏名 | 所属名・職名 | 表彰の理由 |
|-------------------------------|----------------------------|--|
| <p>あつ たち ち づ 熱 田 千 鶴</p> | <p>出雲市立平田中学校 教諭</p> | <p>不登校コーディネーターとして、主に教職員への支援と家庭への支援に取り組んでいる。</p> <p>教職員への支援では、不登校相談員の家庭訪問計画や、行事に参加しにくい生徒の居場所・見守り計画など、多岐にわたってきめ細かな計画を作成しており、教職員や支援員が先の見通しをもって行動する際の一助となっている。</p> <p>また、生徒の特性や家庭環境、経済状況等の情報収集を行い、関係機関や地域とのパイプ役となることで、早い段階での家庭支援を行っている。そのほか、保護者の不安を解消するために悩みを聞く場を設けるなど、保護者のケアにも力を注ぎ、心の安定をはかることで、生徒の段階的な登校や、進学へとつながった。</p> <p>こうした取組は、本県の教育の充実・発展に資するものである。</p> |
| <p>いし かわ はや と 石 川 隼 人</p> | <p>島根県立浜田商業高等学校 教諭</p> | <p>平素の授業等で地域連携ができる環境を整え、地域のプロフェッショナルと生徒を結び付け、本物を学ばせたいという教諭の思いがきっかけとなり、学校独自の人材バンク「浜商応援団」が設立された。</p> <p>「浜商応援団」の設立後は、授業等で積極的に活用することで、地域の方々と交流する機会が増え、さまざまな指導・助言をもらえるようになったほか、生徒にも変容が見られ、大人との交流を通し、自分の考えをまとめ、説明することに苦手意識を持っていた生徒が積極的に交流するようになった。また、コミュニケーション能力や人間関係を構築する力の向上につながり、異なる世代との対話や協力を通じて、社会的スキルを磨くことができるようになったほか、さまざまなキャリアの可能性を見ることで、生徒自らの進路を考える機会にもなった。</p> <p>このような、人材バンクのさまざまな機会での活用は、生徒の資質能力向上や進路実現に寄与しており、また、教育活動における地域資源の活用促進にもつながる取組である。</p> |

| 氏 名 | 所属名・職名 | 表 彰 の 理 由 |
|------------------------|------------------|---|
| きつかわさとみ 吉川里美 | 出雲市立平田中学校 教諭 | <p>音楽の教科指導や合唱指導では、「どんな合唱にしたいか」、「合唱の練習を通してどんなふうに自分や学級、合唱部を成長させたいか」を問いかけ、生徒一人ひとりに目標を持たせることで、生徒のモチベーションや力量を高める指導を行っている。合唱部以外の部活動に所属していた生徒が、教諭の指導により合唱の素晴らしさや、人に感動を与えることができることなどに気がつき、進路を検討する際に考慮に入れるなど、生徒の進路選択にも影響を与えている。</p> <p>このような、生徒一人ひとりに寄り添い、個性を伸ばす指導は、若手教員の手本にもなっている。</p> |
| たか はし りょう こ 高橋良子 | 島根県立宍道高等学校 教諭 | <p>令和3年度より外国にルーツを持つ生徒（以下、CLD生という）の受入れ校に指定された島根県立宍道高等学校において、CLD生が学びやすくなるためのカリキュラム作成や使用教科書の選定、支援体制づくりなど、中心的な役割を果たした。1年次にはCLD生のみでクラスを構成するが、その担任として日本語理解の授業を行うだけでなく、生徒の自己肯定感を高める指導も行っている。</p> <p>また、CLD生への理解を深めるために教員研修も企画し、学校全体でCLD生を支援する体制を構築した。学校行事「多文化共生を考える日」では、CLD生が自国の文化や考えを他の生徒に発表する場を設け、CLD生に大きな自信を与えるとともに、他の生徒が多様性を認め合うきっかけになっている。</p> <p>これらのCLD生への指導については、他県からの学校訪問なども行われており、高く評価されている。</p> |

| 氏 名 | 所属名・職名 | 表 彰 の 理 由 |
|---------------|------------------|---|
| まつ 松 浦 聡 子 | 島根県立浜田高等学校 教諭 | <p>生涯にわたる食育の推進を重点施策の一つに掲げる島根県食育推進計画のもと、島根県教育委員会から食育協力校の指定を受けた島根県立浜田高等学校の家庭科教員として、島根県立大学と連携し、これから自立する高校生に向けて、食に関する自己選択能力や実践力を高める指導を熱心に行った。</p> <p>また、家庭クラブ顧問として、HAMADA教育魅力化コンソーシアムと連携しながら、地元出身の料理人とコラボし、地元食材の魅力を伝えるべく、親子参加型の料理教室を地域で開催するなど、地域の食育推進に貢献する生徒育成に努めてきた。食育教育を基盤とした健康教育に取り組むさまざまな活動が、地域と学校の関係性を深めながら展開されていることで高い評価を受け、令和4年度に高等学校としては初めてとなる島根県健康教育優良表彰の食育分野での受賞につながった。</p> <p>生活科学部顧問としても、地域住民と密接に関わりながら食育とSDG sを絡めた取組を実践した。令和5年度には全国の高校生が地域独自の缶詰を開発して競い合うLOCAL FISHアイデアコンテストに、地域特有の課題を持つさまざまな海の生物を題材として参加し、全国決勝大会進出に導き「美味賞」を受賞した。</p> <p>こうした取組は、他の教職員の範となるものである。</p> |

(注) 上記の掲載順は、五十音順による。